

## - 6 . 中国の将来動向に関する調査

### Study on china's future trend from middle term view point

<b>キーワード</b>	中期予測、中国、技術、社会、安全保障、日中関係
<b>Key Word</b>	China, Future Trend, Japan-China relations, Global trend

#### 1. 調査の目的

急速な経済成長と軍事力の近代化を続ける中国の台頭が、今後、東アジアと世界の安全保障に大きな影響を与えることは明らかであり、将来の我が国の総合的な政策を考える上で、中国の将来動向を踏まえることは必要不可欠なものとなってきている。本調査は、中国の将来動向について調査、分析を行い、我が国の対応について検討に資するために行うものである。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 調査の方向

13億人を超える世界最大の人口を有する中国は、この10数年間年率平均10%近い経済成長を続け、この高度経済成長を背景に、この数年間中国は急速に超大国への道を歩き、世界政治におけるその存在感を強めてきた。国連安全保障理事会の常任理事国で世界の政治的大国である中国は相当程度に強力な核戦力を有し、この数年間で宇宙展開能力を含めた近代的戦力の整備も急激に進められている。自らを発展途上国と規定し、発展途上国の代表として先進国に挑戦するとスタンスで先進国代表であるアメリカへの挑戦スタイルを示している。中国は経済力や軍事力だけでなく国家意思という点からも明確な表示を示し、国際政治の最有力なプレイヤーの一つである。中国の台頭は「米中によるG2の形成」と、米中2極時代の到来を指摘する論者も出現している。超大国としての中国の将来動向を展望することは、我が国においても最も重要な課題でもある。

##### (2) 調査の内容

中国の政治社会経済の今後の動向

今後の中国の経済力や技術力の伸張、民主化の進展等の政治体制の変化、中国社会の変容等の将来動向を検討する。

対主要国関係(日本含む)と中国の対外・安保政策

今後の日本を含む主要国(特に米国・ロシア・インド等)と中国との間の外交、安全保障を含む対外関係を展望する。

中国の軍事力近代化とその影響

中国の軍事力近代化の将来動向とそれが我が国に対する影響を検討する。

##### (3) 主な成果

主要な検討結果はつぎのとおりである。

世界金融経済危機に対する中国側の見解

中国の戦略家たちは、「米国の経済がそれほど遠くない将来で、今の谷間を抜け出すことができ、結果として米国が依然として世界をリードする経済大国である地位が変わらない」と想定し戦略を立てている。

中国の今後の発展経済方向

世界金融経済危機は世界の経済構造の転換の産物である。中国政府は4兆元規模の経済刺激策を投じ、大規模な政府による投資、幅広い産業構造の調整と振興、科学技術面での力強いサポートおよび社会保障レベルの向上という四つの内容が盛り込み、アジアにおける成長のエンジンの役割を果

たそうとしている。鉄鋼、自動車、船舶、石油化工、紡績、軽工業、非鉄金属、装備製造業、電子情報、物流の 10 産業を重点産業として調整・振興計画を制定。同計画の策定及び実施に当たっては、構造改革促進、競争力増強、産業のグレードアップを図る方向で進めている。

中国は有人宇宙活動にみられるように積極的な宇宙から海洋までの縦深性のある軍事力強化に努めており、最近の空母保有動向や、四川大地震で露呈した航空戦力の遅れを解消すべく積極的な航空戦力革新增強などその軍事力は多極化のなかの 1 極として米国を睨みながら世界戦略の中に主要な要素として位置づけられている。

米国との関係は に指摘されたように国際社会における役割の分担を重視しつつ、競争と強調の関係が続いていくであろう。その意味で安易な衝突を避ける政治姿勢が続いていくものと見られる。我が国も対米関係上かかる中国の姿勢をより安定化させる施策を講じることが必要である。

将来動向の注目点：

中国の政権の国政担当能力が深刻に低下する可能性は、東アジア地域の最大の不安定要因である。19 世紀中期の中国のガバナンス低下は東アジアのパワーバランスの大混乱を惹起し、欧米勢力のアジア侵食から日中、日米戦争へ至ったように、中国のガバナンス能力低下は、地域の混迷と緊張をもたらす。東アジア地域に長期間続く政治的軍事的不安定性をもたらす。これからの世界を牽引する中国やインドなどにとっても東アジア地域の不安定はメリットが少ない。

核問題に緊張する朝鮮半島の中長期問題は朝鮮半島を起点とする東アジア地域の不安定を抑止するために関係国の連携が求められるであろう。この意味でも東アジア地域の、形式ではない実質的な民主化をともなった社会経済の開放と進展の進行が大きな意味を持つこととなる。



写真はソマリア沖に派遣された最新鋭駆逐艦。

中国は 2008 年 12 月下旬 ソマリア沖に最新鋭駆逐艦 2 隻（海口、武漢）および補給艦 1 隻（微山湖）の計 3 隻を派遣した。中国の遠洋型海軍への布石である。



2008 年初飛行のビジネスジェット ARJ21

中国は神舟号のような宇宙開発事業に比較して立ち遅れた民間航空機製造事業を急速に発展させるべく意欲的な政策展開を見せている。大型民間航空機についても天津を中心にエアバスの最終組み立て工場を建設し、中国組み立て 1 号機が出荷されたばかりでもある。